イエス団東日本大震災救援対策本部　活動報告書

発行所：社会福祉法人・学校法人イエス団　東日本大震災救援対策本部
発行者：対策本部長　平田　義
〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20　TEL:078-221-9565　FAX:078-221-9566
http://www.jesusband.jp　e-mail: saigai-sien@jesusband.jp

vol. 3
2011/10/15

イエス団東日本大震災救援対策の働きにご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。

9 月で大震災発生から半年が経過し、被災地各地で犠牲者への追悼行事が行われている様子を見ると、あらためて被害の甚大さを再確認しました。そんな中、追い打ちをかけるように日本を襲った台風 12 号･15 号の被害により、東北の被災地では一部の家屋や仮設住宅までも浸水被害を受け、全国でも多数の死者・行方不明者がでるなど、自然の猛威の恐ろしさをあらためて感じました。　今回の報告書では、近畿･中国･四国地方を襲った台風 12 号に関する他団体の支援活動の様子も紹介させていただいておりますのでご一読ください。　被災地の復興にはまだまだ時間がかかりそうですが、イエス団でも確実に支援活動の輪は広がっており、支援活動を継続的に行っていくためにも、皆様お一人お一人のご協力をあらためてお願い申しあげます。

～　活 動 一 覧（10 月 15 日現在）　～

活動(支援)場所	活動日（期間）	イエス団施設名	活動内容
岩手県、宮城県の一部の保育所	・4 月 7 日～7 月 2 日	・馬見労祷保育園	保育備品を収集し、被災された保育園・施設へ送付
①岩手県宮古市	・6 月 18 日～22 日	・賀川記念館	現地視察、障がい者施設支援のための情報収集
②岩手県大槌町	・8 月 4 日～8 日	・法人本部事務局	大槌町包括支援センター　支援活動
③岩手県陸前高田市	・6 月 28 日～7 月 2 日	・ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
	・7 月 5 日～9 日	・ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
④宮城県仙台市	・9 月 6 日～8 日	・聖浄保育園	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
	・9 月 7 日～10 日	・京都市南部障がい者地域生活支援ｾﾝﾀｰ「あいりん」	被災者支援コンサート
⑤宮城県石巻市	・4 月 4 日～10 日	・愛隣ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・4 月 20 日～27 日	・愛隣ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・5 月 10 日～14 日	・ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
	・6 月 3 日～4 日	・愛隣ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・6 月 18 日～19 日	・愛隣ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・6 月 23 日～30 日	・愛隣ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
⑥宮城県東松島市	・5 月 16 日～20 日	・ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
⑦福島県猪苗代町	・8 月 1 日～6 日	・京都市南部障がい者地域生活支援ｾﾝﾀｰ「あいりん」	障がい児・者相談支援
	・8 月 22 日～27 日	・京都市南部障がい者地域生活支援ｾﾝﾀｰ「あいりん」	障がい児・者相談支援
京都市伏見区	・6 月 19 日	・愛隣館研修センター	向島ほっこりﾌｪｽﾀにて被災障がい者施設製品販売
京都市伏見区	・7 月 9 日	・愛隣館研修センター	あいりんまつりにて被災障がい者施設製品販売
神戸市中央区	・5 月 15 日	・賀川記念館	賀川記念館周辺地域の救援活動報告会
	・8 月 10 日～	・賀川記念館	被災障がい者施設製品販売
六甲山ＹＭＣＡ	・6 月 17 日～18 日	・イエス団法人研修会	ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ研修にて被災障がい者施設製品販売

～ 活 動 報 告 ～

●福島県会津若松圏域【8月1日～6日】

相談支援の応援はとても難しく「何ができるだろう」と思っていたが、青柳アドバイザーが仕事を準備・用意してくれたので、面談記録等事務的なことに関しては滞りなく活動できたのではないかと思う。逆に青柳アドバイザーはただでさえ仕事に帆走されているのに、この段取りも大変であるし、週ごとに来る者が変わるので、大変申し訳なく思う。感謝したい。

活動では、県職員、会津地域での行政の方、相談支援専門員の方、はまっ子くらぶのスタッフとの関わる機会を作っていただいたので、この地域の情勢・ネットワークを早く知ることができた。青柳アドバイザーはじめ、他機関の方、被災されて避難されてきている方の話を直に聞いて、返す言葉がなかった。民宿やホテルでの避難生活、兄弟が津波に流された子ども、４ヶ月間外で遊べなかった子どもたち、避難所へ出向いても障がいのある方をキャッチできない相談員の苛立たしさ、仮設へ移る引き継ぎの難しさ、訓練していた子どもが流されたり、どこに避難したのかもわからないと葛藤を続ける被災されたスタッフ、避難されてきた方を受け入れる事業所、別の地で事業所を再開させようと帆走するスタッフ・・・この未曾有の大変な状況の中、避難生活をしている方々、支援している方々にただただ感心するばかりの日々だった。

最後に、この８月の応援活動が継続性のあるものにしないといけないと思う。来る者が変わってもきちんと前任者が記録で引き継ぎを行うことが重要である。９月以降に関しては、山田優氏と福島県、受け入れた相談支援事業所と振り返りを行い、今後について話し合う必要があろう。仮設での暮らしにも多くの課題が出てくることが予測される。腰を据え、長期に応援できる体制作りも必要ではないだろうか？

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」（京都市伏見区）
佐藤雅裕

●岩手県大槌町

岩手県大槌町包括支援センター支援活動【8月4日～8日】

大槌町は人口 15,293 人（2010 年 10 月 1 日現在）。岩手県の沿岸部に位置し、南は釜石市、北は山田町、東は太平洋に面しています。被害状況は 9 月 27 日現在で、死者 802 名、行方不明者は 576 名。町内 2106 戸の仮設住宅に、2,014 世帯、4,697 名の方が入居されています（※グループホーム型仮設住宅を除く）。岩手県大槌町からの支援要請に基づき、岩手県長寿社会振興財団の支援を受け、大槌町地域包括支援センターに総合相談を支援する社会福祉士が 4 月 27 日から 2 人体制で継続的に派遣されています。

私は、函館市地域包括支援センターこん（北海道）から来られた三谷真理さんとペア-で 活動日８/５～８/８の間、お手伝いさせていただきました。以下のレポートはペア-の三谷さんの書かれたものです。

「神戸のひまわり」が満開でした。前任ペアに引き続き、仮設住宅の高齢者実態把握を行いました。これまで土日はデータ入力作業が主体のようでしたが、今回は、元持さんと前任ペアとの相談の結果、訪問活動にあてることとなりました。訪問先の仮設住宅は山あいにあり、訪問当日入居という方もありました。まだ電話が設置されていなかったり、集会場の工事中だったりする一方、移動販売が定着していたり、と生活環境の充実度合いは様々でした。訪問活動では神戸の中田さんと役割分担をし、最初は主に私がドアノックし聞き取りをすることとしました。やがてお互いの息も合い、対象者の様子に合わせて関西・男性・中田さんと東北生まれ・女性の私とで補完し合いながら対応しました。もの忘れの疑いのある独居の方や、精神障害の子と 80 代夫婦の世帯などを継続訪問ケースとして包括に報告しました。また家賃の変更から生活保護費の額面が減ったことを理解できていない方については、今後義捐金の分配が収入認定された際の理解の支援や金銭管理の実態の見極めが必要と思われました。一方、ボランティアカフェを媒介に住民が周囲に声をかけ「よりあい」ができつつある元気な地区のことも報告しました。

最終日の月曜日に後任ペアとともに岩間さん、元持さんとゆっくり話ができました。震災前の大槌町の状況、例えば予防給付件数が月 60 件位だったこと、住民の自主独立の気風、現在の医療介護サービスの復旧度合いなどを伺い、後任ペアと視点を共有しました。拠点には会員による丁寧な申し送りが多々あり大変助かりました。面識ができた５名とはもちろんのこと、会全体の協働作業なんだと実感しました。

帰着後、町内の避難所が全て閉鎖されたというニュースを聞きました。「夫婦で２畳」といった避難所生活からの解放の一方、多くの住民の方々は「海ばた」から「山なか」での生活となり、戸惑いもあるようでした。これから新たな生活課題も生じることと思いますが、大槌町包括がこの町とともに在る高齢者を自らで支えていく日が来ることを信じています。

イエス団法人本部事務局（神戸市中央区）　中田一夫

●宮城県仙台市

東日本大震災復興支援ボランティアを通して【9 月 6 日～8 日】

被災地を訪れ、一番初めに目にした仙台駅前は特に目立った被害はないように感じましたが、都市部を少し離れると、震災の爪痕を感じるところがたくさん見られ、6か月の月日が経っているのにも関わらず、改めて被害の大きさを感じました。私達が参加させていただいた、日本基督教団東北教区被災者支援センター「エマオ」では、支援場所として主に宮城県仙台市若林区七郷と石巻市の２か所を中心に活動していました。

２か所ともで言える事ですが、復興するための片付け作業がたくさん残っているのが現状で、人の手による息の長い活動が必要だと思いました。また、大きな被害にあわれた方達が、その中から前進して進んでいこうとする姿に、逆に元気づけられました。人が寄り添いながら、支えあって生きていくという事を実感させてもらえるとてもいい経験になりました。

「エマオ」の活動は中心に「寄り添う」という考え方があり、被災者の方とのとても深い信頼関係の上で活動が行われていました。この「寄り添う」という考え方にはとても共感を覚え、イエス団の理念・ミッションとも通じるものがあり、このような活動を支援していく事が出来ればと思いました。

聖浄保育園（大阪市生野区）　古川良一

日本基督教団東北教区被災者支援センター「エマオ」で２日間ボランティアさせて頂きました。

作業内容は草抜き・清掃作業でした。たった２日間のボランティア活動をする私たちに地元の被災者の人や長期ボランティアの人たちの気遣いや思いやりを感じ、人と人との繋がりの大切さを実感しました。

ボランティアに行ってみて思ったことは、場所によって復興の度合いが違うという事です。JR 仙台駅付近では本当に地震があったのか疑うほどでしたが、少し離れると地震の傷跡が見えました。荒波海岸という所に行くと、海岸付近はすべて流され何もない状態でした。ここにあったものが全て流されたんだと思うと本当に恐ろしいと思いました。

このボランティアに行き実際に見て感じ得たものは大きいと思います。ボランティアは何かしようと思い出かけますが、実際出来る事はほんの少しで人と人との繋がりの大事さや思いやりなど学ぶ良い機会となりました。

今回の経験の中で繋がりや思いやりが大切なことは分かっていても生活の中でその気持ちが薄れしまう自分があり、短い期間でしたが、このボランティアでその大切さを強く感じる事ができました。

今回行かせてもらえたことは、自分にとっていい経験になり、行って良かったと本当に思います。本当にありがとうございました。

聖浄保育園（大阪市生野区）　小松佐登子

●宮城県仙台市、塩竈市、名取市

青野浩美　震災復興支援ツアー報告【9 月 7 日～10 日】

この度の「青野浩美震災復興支援ツアー」に際しまして、社会福祉法人イエス団東日本大震災災害救援対策本部より資金援助を賜り、大変感謝いたします。

青野浩美は、同志社女子大学で声楽を学び、特別専修生として音楽の研究に取り組み、卒業公演を二ヶ月後に控えた 12 月末に突然全身が動かなくなるという、未だに原因や病名も分からない難病を発病した声楽家です。音楽教師を目指してリハビリしながら、介護施設などでコンサートを開いたりしていた彼女に、今度は「無呼吸発作」が襲います。「無呼吸発作」とは読んで字のごとく「息ができなくなる」という状態であり、本人曰く「息の仕方が分からなくなる感じ」ということです。何度も繰り返しおこる発作のたびに病院に担ぎ込まれ、人工呼吸器によって呼吸を回復するということを繰り返すうち、医師から告げられたのは「気管切開をしていつでも呼吸器につなげられるようにしないといのちの保障はできない」ということでした。一般的に気管切開をすると声が出なくなる、或いは声の質が大きく落ちると言われる中、生活の大部分を歌に打ち込んできた彼女にとっては「今度は声まで奪われるのか！」と悩み苦しむこと半年。多くの友人が「歌を奪われるなんて・・・」と悩みを共有する中、ある友人の「お前はアホか！声といのちを天秤にかける事自体が間違ってるやろ！」の一言で彼女ははたと気づきました。「いのちがなければ、声もなにもないやん。いのちがあれば、なにか方法はあるかもしれへん」と決心し、2008 年 5 月に気管切開をすることになりました。手術前、彼女は医師に尋ねました。「本当に声はでなくなるの？」「可能性が無いわけではない。スピーチカニューレという器具を使うと声が出る場合もある」「そしたらまた歌える？」「う～ん、気管切開した歌手って聞いたこと無いなぁ。前例がないから無理と違うかな」。その時彼女は「よっしゃ！医学的に無理、ってことやないし、ただ『前例がない』っていうだけやったら、私が前例をつくったらええんや！」と思ったそうです。幼い頃から負けん気が強く、「おてんば」だった彼女らしい発想です。手術後、いくつかのスピーチカニューレを試す中で、彼女にぴったりのものが見つかりました。普通に元の声が出るのです。すぐに父の携帯に電話したとき、お父さんは「浩美やんけ。声でてるやん！」と驚かれたそうです。

声がでるなら歌うこともできるはず。こうなったら青野浩美の真骨頂が発揮されます。その年の 12 月、京都で行われた「医療的ケア実践セミナー」のパーティーで彼女は気管切開後初めての「本番」を迎えました。手術前に「これが最後かも」と開いたリサイタルで、ともに音楽の道を歩む母と妹と合唱しながら流した涙はそこにはなく、母のピアノで、妹との二重唱を奏でるその歌声は、医者や福祉関係者に驚きと感動を巻き起こし現在のコンサート活動に結びついています。
今回の仙台を中心としたツアーは、昨年仙台で開催した「医療的ケア実践セミナー」でお世話になった方々が被災された現状に触れて、いつか歌で恩返しをしたいと願っていたことが思ったより早く形になったものでした。もちろん人工呼吸器とたんの吸引器を携えて。「まだまだ歌どころじゃない！」というご意見もいただきましたが、受け入れてくださった各施設で彼女の歌は被災された方々のこころに染み入り「共に生きていこう！」という思いをつたえたことと思います。
今回のツアーを支えてくださった皆様に感謝いたします。現地の復興はまだまだ時間がかかりそうです。そうした中で、青野の歌が復興へ向かう人々の何かの力になれるのなら、また被災地に向かう機会を作りたいと願っています。ありがとうございました。

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」（京都市伏見区）
篠原　文浩

青野浩美震災復興支援ツアー訪問先

日時	訪問先	内容
2011 年 9 月 7 日（水）	宮城県拓桃医療療育センター	ミニコンサート　入所児約４０人と交流
2011 年 9 月 8 日（木）	仙台市若林障害者福祉センター	ミニコンサート　通所者約２５人と交流
2011 年 9 月 8 日（木）	太白ありのまま舎	ミニコンサート　入所者約４０人と交流
2011 年 9 月 9 日（金）	仙台つどいの家　アプリ	ミニコンサート　通所者約２５人と交流
2011 年 9 月 10 日（土）	塩竈市：坂総合病院	難病の青年との懇談
2011 年 9 月 10 日（土）	名取市	閖上地区被災地視察

～ 募 金 状 況 ～

「イエス団震災救援対策本部」ではイエス団関係各所に対し、被災された方々への救援のための活動資金や義援金のため１千万円を目標金額とし募金活動を行っております。引き続きご協力ください。また、現在までに集まりました募金状況をお知らせいたします。これまでに集まった募金**９５口　￥６，３８６，３４７－**

（10 月 11 日現在）

目標の 1,000 万円まで、￥３，６１３，６５３－

〈以下に募金いただきました方々に感謝の意をもって掲載させていただきます。（9 月 11 日～10 月 11 日現在）〉
上内　鏡子、天国屋カフェ

【順不同、敬称略】

※記載に関しては、万全を期しておりますが万が一記載漏れがございましたら上記までご連絡ください。
たくさんのご支援をいただき感謝申し上げます。今後も息の長い支援をさせていただくため、目標金額まで継続し募金活動を行っていきたいと思いますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

【募金振込先】

・郵便（ゆうちょ銀行）振替口座　　口座番号：01140-8-75472　　加入者名：社会福祉法人イエス団

＊郵便振替の場合は通信欄に、「東日本大震災救援募金」と明記してください。

・三井住友銀行　三宮支店　普通預金：9206516　　口座名：社会福祉法人イエス団

～ 他の支援活動の紹介 ～

●和歌山県那智勝浦町

台風 12 号で被害を受けられた「天満保育園」の支援【9 月 12 日～21 日】

台風 12 号は最悪の被害を及ぼしました。9 月 4 日に近畿地方に最接近いたしましたが、速度が非常に遅く、特に紀伊半島では 8 月 30 日から 9 月 5 日ごろまで長時間に及んで豪雨をもたらし、年間総雨量の約１０ヶ月分以上に相当する歴史的豪雨となりました。各地で土砂災害、河川の増水、浸水などが報道され、土砂災害では戦後最大とも言われ、今なお堰き止められている河川が決壊しないか予断を許さない状況にあります。

9 月 5 日に台風の情報が刻々と報道され、和歌山の被害が予想をはるかに超える状況にあることを知り、キリスト教保育所同盟大阪地区所属の園の安否が心配になって、みなべ町の愛之園保育園と那智勝浦の天満保育園とに連絡を取りました。愛之園保育園は、幸いにも浸水することなく無事保育ができていることを聞きほっといたしました。しかし天満保育園からは「園舎が浸水し保育できない状況にあります。支援をお願いするかも知れません。」という内容のメールが返ってきました。どうしようか悩んでいるその時、キ保同の本部から天満保育園に状況確認へ行きますとの連絡が入りましたので、報告を待つことにしました。後日、浸水した園舎の状況に併せて、隣の保育園で合同保育をしていることなどの報告を受け、今後の支援について検討しました。その後支援に行きたいが、かえって足手まといになってはいけないと、どうしたら良いか分からないまま数日が過ぎましたが、水道も復旧し本格的な復旧作業が始まったことを聞き、同じキ保同大阪地区の仲間として支援に行こうと決断いたしました。

キ保同加盟園に、天満保育園の状況を伝え支援を要請したところ、すぐに多くの園から「お手伝いしたいが、どうすれば良いですか」という問い合わせが多数寄せられました。普段は離れていてなかなか会えない仲間たちですが、こんなに積極的に支援に参加してくださる、いざという時の行動力に心打たれる思いでした。

9 月 12 日、第一陣として四貫島教会の黒田先生、学童の大宮先生がすぐに作業に必要な道具や物資を揃えてくれ 3 名で出発いたしました。高速道路では多くの自衛隊の車を横目にし、現地に近づくにつれ災害の物々しさを肌で感じながら、１０時過ぎに天満保育園に到着して本宮園長にお会いすることができました。もうすでに職員さんを始め、保護者や教会員、教団からの派遣やＮＰＯボランティアの方々が、泥まみれになった園舎や備品の清掃作業をされていましたので、一緒に参加して作業させていただきました。床から 90 センチほど浸水した泥の跡が生々しく残っており、給食設備は全滅、絵本類は水浸しと膨張して棚から取り出せない状態、ロッカー類は腐って使いものにならず、床は磨いても磨いても泥が浮き出で来るような状態で、保育再開には多くの作業を要することを実感いたしました。疲れが溜まっているにも関わらず、園長を始め職員の方々からお礼を言われた時は、もっと早くに支援予定を組めば良かったと後悔させられました。しかし翌日からはキ保同だけで計 7 ヶ園約 30 名の方々が順次、9 月 21 日まで支援に行ってくださいました。その他、支援に行けなかった園からは絵本を送ってくださったり、義捐金を協力しますと言っていただいたりと、本当に被災地を思う気持ちに頭が下がる思いでした。

天満保育園は多くの支援もあって無事 9 月 26 日に保育再開することができました。失ったものも多かったですが、そこには多くの出会いと繋がりや思いやりが交錯していたように思います。これからもまだまだ完全復旧までの道のりは長いかと思いますが、神さまの守りが豊かにあって、一歩一歩前進していくことを心よりお祈り申し上げます。

天使保育園（大阪市此花区）　嶋田　良介

～ イエス団 の理 念 ～

ミッションステートメント２００９

わたしたちイエス団の実践は、1909 年 12 月 24 日の賀川豊彦の献身に始まる。そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009 年 12 月 24 日
社会福祉法人イエス団
学校法人イエス団

『まけるもんか岩手！マグカップ』 絶賛販売中！

～ イエス団救援対策本部　支援活動 ～

東日本大震災支援

あなたのエールを岩手に！

1個 500円！『まけるもんか岩手！マグカップ』の購入を通じて岩手へエールを送りませんか。

イエス団東日本大震災救援対策本部では、支援活動の一環として、「まけるもんか岩手！のマグカップ」の販売協力をさせていただいております。一人でも多くの方々にご購入いただき、岩手の方々へエールを送りたいと思います。是非ご購入ください。また、このマグカップの売り上げは「東日本大震災関西障害者応援連絡会」を通じ、岩手県内の障害者福祉事業所の利用者及び地域生活者の生活・余暇支援活動に必要な物品の提供。とくに被災の大きかったグループホーム等生活者への支援等に活用させていただきます。

【名　　称】東日本大震災支援「まけるもんか岩手！マグカップ」
【企画制作】東日本大震災関西障害者応援連絡会
【デザイン面】岩手県社会福祉協議会障がい者就労支援振興センター
　　デザインアドバイザー山崎文子
【製 造 元】山大大野商店（岐阜県土岐市）
【販 売 元】岩手県知的障害者福祉協会・岩手県社協障がい者福祉協議会（合同支援プロジェクト）
　　東日本大震災関西障害者応援連絡会・他協力団体
【東日本大震災関西障害者応援連絡会参画団体】
　　ひまわりの家（奈良県磯城郡）　、ちいろば（奈良県生駒郡）、どうで（奈良県山辺郡）、
　　アクティブセンターうだ（奈良県宇陀市）、もちつもたれつ（奈良県大和高田市）、
　　マーブル（奈良市）、わたぼうしの会（奈良市）、 クリエイティブハウスバンジー（東大阪市）、
　　ベテスダの家（京都市伏見区）、イエス団 愛隣館（京都市伏見区）、
　　相楽福祉会（京都府相楽郡）、西陣会（京都市上京区）

【ご購入に関するお問い合わせは】
愛隣デイサービスセンター：TEL：075－621－3849　または、イエス団各施設まで